

報告・資料

## 津山のわらべうた（1） Children's Game Songs of Tsuyama (1)

杉山知子・井戸和秀\*<sup>1</sup>

### 調査の目的

「わらべうた」は、子どもの「遊び」と深く結びついている。戸外で集団遊びをするときには、「花いちもんめ」や「かごめ かごめ」などが歌われたり、縄跳びをするときには「おじょうさん おはいいり」などが、また、鬼遊びにおいては「あぶくたつた」などの歌が歌われる。さらに、「まりつき」や「羽根つき」の歌や、「はやしうた」、「ひやかしうた」もある。しかし、近年ではこれらのわらべうたを歌う子どもの姿はほとんど見られなくなった。

現代では、ファミコンやコンピュータなど機械を相手とする遊びが定着し、自然の中で子ども同士での遊びは非常に少なくなっている。これは、子どもが塾通いに追われて、遊ぶ時間も仲間も少なくなっていることや、自然環境の喪失、遊び場の減少など、時間的・空間的な制約状況が要因となっているためであろう。

わらべうたは口承伝達されるため、伝達の過程で歌詞やリズム、音程などは少しずつ変化していく。しかしそれは、その地域の生活の反映としての文化内における変化であり、その枠から大きくはずれるものではない。そのようにいくらかは変化しながらも、子どもの遊びの中に伝承されてきたわらべうたは、現代では、子どもの遊びの変化によって消滅しかけている。そこで、今あるわらべうたを採取し、記録に残しておくことは非常に大切なことだと考える。なぜならば、わらべうたを知ることは、子ども文化を知るために、また、

その社会的背景を知るために、さらに、子どもの自然発生的遊びを知るために、音楽的素材として貴重な資料になるからである。コダーイ・メソッドやオルフ・メソッドではそれぞれの国のわらべうたや民謡を音楽的素材としていることは、あまりにも有名である。

以上の知見から、本研究では身近な津山のわらべうたを収集し、それらの旋律を楽譜として採譜・記録することにした。

### 調査の方法

今回のわらべうた調査においては、生まれも育ちも津山であり、現在も津山に居住されている2名の方に協力をお願いした。山田美那子（やまだ みなこ）氏<sup>1)</sup>と土居由乃（どい よしの）氏<sup>2)</sup>のお二人は、津山地方のわらべうたを数多く知っていることで著名な方々である。

山田美那子氏は劇作家として風土にちなんだ歌舞伎やオペラ、ミュージカルの台本を多く手がけられ、上演されてきた。また、民話をもとに紙芝居制作や公演を自ら行われるなど、児童文化活動面にも積極的に取り組まれている。このように、地域を題材とした文筆活動および実践活動をされる中で、幼い頃豊富に経験されたわらべうた遊びを活用されている。

土居由乃氏は、数多くのわらべうたの歌詞を『心のふるさと』として出版されている。また、長年にわたる短歌への取り組みや校歌や音頭の作詞、方言集『消えてゆく 作州地方の言葉』の出版など文筆活動に携わってこられた。さらに、最近では「昔からの言い伝

\*岡山大学

えなどを後世に残したい」という気持ちから、保育園、幼稚園、小学校などで伝承民話の披露が続けられている。

このように、わらべうたに造詣の深いお二人から、合計74曲の歌を採取した。

録音の年月日など具体的な調査の方法について次に示す。

#### 1) 山田美那子氏からの採取

- ①録音年月日：2002年3月13日
- ②録音の場所：美作女子大学 杉山研究室
- ③録音の方法：カセットテープおよびMD
- ④録音の曲数：41曲

#### 2) 土居由乃氏からの採取

- ①録音年月日：2002年3月14日および4月3日
- ②録音の場所：津山市下田邑の土居氏宅
- ③録音の方法：カセットテープおよびMD
- ④録音の曲数：33曲

#### 調査曲の内容

今回は収録した74曲の中から30曲について、採譜した楽譜と歌詞を遊びの種類別<sup>3)</sup>に示すことにする。

- 1. 「まりつき・羽根つき・お手玉の歌」
- 2. 「天体・動物・植物の歌」
- 3. 「縄跳び・鬼あそび・集団あそびの歌」
- 4. 「ことばあそびの歌」
- 5. 「子守歌・行事の歌・手合わせ歌」

の5種類である。

曲名には、「歌い出し」の語句を用い、採譜においては子どもの声域にあうように、実音より1オクターブ高く記譜した。また、拍子、リズム、音程などの「揺れ」については、著者2名で協議した上で、五線譜に表せるように修正した。

なお、土居氏と山田氏の歌で歌詞内容は非常によく似ているものでも、遊び方は異なるという歌があった。それらについては、それぞれ該当する遊びの方に分類して示した。

#### 1. まりつき・羽根つき・お手玉の歌

##### ①譜1 「てんてんてん」(まりつき 歌・山田美那子)

てんてんてん



てんてんてん 天神さまのおまつりに てんてんてんまり  
を買いました 買いました

てんてんてん 天神さまの石段は だんだん数えて二十  
段 二十段 段の数ほどつきましよう つきましよう

てんてんてん てんてんてんまりはどこでつく 梅のお花  
の下でつく 下でつく

てんてんてん てんてんてんまりをつくたびに つくた  
びに 梅のお花が散りました 散りました

②譜2 「一匁のいんすけさん」

(まりつき 歌・山田美那子)

一匁のいんすけさん

いちもんめ の いんすけさん いもかい に ほした  
 いちまんいっせんいっぴやく おく いっとういっとういっとうまいの  
 おふだをおさめて にもんめにわたした

いちもんめのいんすけさん 芋買いに走った 一万一千  
 一億一とう一とう一とう枚のおふだをおさめて二もん  
 めに渡した

二もんめのいんすけさん にんじん買いに走った 二万  
 二千二百億二とう二とう二とう枚のおふだをおさめて三  
 もんめに渡した

三もんめのいんすけさん さんしょ買いに走った 三万三  
 千三百億三とう三とう三とう枚のおふだをおさめて四も  
 んめに渡した

四もんめのいんすけさん よもぎ買いに走った 四万四千  
 四百億四とう四とう四とう枚のおふだをおさめて五もん  
 めに渡した

五もんめのごすけさん ごぼう買いに走った 五万五千  
 五百億五とう五とう五とう枚のおふだをおさめて六もん  
 めに渡した

③譜3 「ひとめふため」

(まりつき・羽根つき・お手玉 歌・山田美那子)

ひとめふため

ひとめ ふため みやこしよめごは  
 いつきてみても ななえのおびき  
 やたてにむすび こうのやとんがらし

ひとめ ふため 都衆(みやこし)嫁御(よめご)は

いつきてみても 七重の帯を 矢立に結び 紺屋(こう  
 のや)とんがらし

④譜4 「ひとつろふたろろ」<その1>

(羽根つき 歌・土居由乃)

ひとつろふたろろ

ひとつろふたろろ みいみがよこことて いつさがむこことて  
 なにがやさしゅうて こうのやとお

ひとつろ ふたろろ みいみがよこことて いつさが  
 むこことて なーにが やさしゅうて こうのやとお

⑤譜5 「ひとつろふたろろ」<その2>

(羽根つき 歌・山田美那子)

ひとつろふたろろ

ひとつろふたろろ みいみがよこちようで  
 いつさかむことりなにがやさしゅうて  
 こうのやとんがらし

ひとつろ ふたろろ みいみが横丁で いつさか  
 むことり なーにがやさしゅうて 紺屋(こうのや)  
 とんがらし

⑥譜6「おしろのさん」 (お手玉 歌・山田美那子)

おしろのさん

おしろのさん おんしろしろしろ しろきやの  
 おこまさん さいじよさん たばこのけむりが  
 あいてにならぬが  
 じょうはつあん ひいやふうや みいやよ  
 おこむらさん  
 いつやむうや ななやこのや とお  
 とんとんたくは だれさんじゃ うこんにむらさき  
 しんまちこめやの しげさんじゃ  
 しげさんなにしに おいでたら  
 せちだがかわって かえにきた  
 おまえのせちだは どんなんじゃ  
 あいみどろ — あいみどろ  
 せーんせちだが  
 あるのにないゆうて  
 や—れはらたつ  
 わ—しがじゅうごに  
 に—しとひがしに  
 く—らのまわりに  
 ま—つこのえだに  
 あるものか すずがしゃんしゃん なるときにや —  
 くれなんだ  
 こうわきじゃ  
 こなつたなら  
 くらたてて  
 ますつうけて  
 なるときにや しいさんばあさん うれしかろ  
 うれしかろ ととさんかかさん くやしかり —  
 く や し か ろ

おしろのさん おんしろしろしろ白木屋の お駒さん  
 才女さん たばこの煙が丈八つあん 相手にならぬが  
 おこむらさん ひいや ふうや みいや よ いつや む  
 や ななや このや とお  
 とんとんたくは 誰さんじゃ 新町米屋のしげさんじゃ  
 しげさん何しにおいでたら 雪駄(せちだ)がかわってか  
 えにきた おまえの雪駄はどんなんじゃ うこんに紫あい  
 みろど そんな雪駄があるものか あるのにないゆうてく  
 れなんだ やあれ腹立つごうわきじゃ わしが十五になっ  
 たなら 西と東に蔵建てて 蔵のまわりに松植えて 松の  
 小枝に鈴つけて 鈴がしゃんしゃん鳴るときにや 鳴ると  
 きにや 爺(じい)さん婆(ばば)さんうれしかろ うれ  
 しかろ 父(とと)さん母(かか)さん くやしかり く  
 やしかろ

⑦譜7「妙願寺の屋根に」

(てまりうた 歌・土居由乃)

妙願寺の屋根に

みょうがんじのやねに さるがさんびきとまって いつちのなかのさるが  
 ようものしとつて いちのきのにき さんのきさくら  
 やなぎのえだに とんびがとまる からすもとまる  
 よたかのくびき ねんねんねあげて おちよろにみせて  
 おちよろはおかち とのさまおうま いつちがたちややりもち  
 はさんば ことがたがた やりのさきべつたりこ

妙願寺の屋根に猿が三匹とまって いつちの中の猿が  
 よう物知つとつて 一の木 二の木 三の木桜 柳の枝  
 にとんびが止まる 鳥も止まる 夜鷹の首を ねんねん  
 ねじ上げて おちよろに見せて おちよろはおかち 殿  
 様お馬 いちがたちや檜持ち はさん箱 がたがた 檜  
 の先や べつたりこ

⑧譜8 「一かけ二かけ三かけて」

(てまりうた 歌・土居由乃)

一かけ二かけ

いちかけにかけ さんかけて しかけてごかけて はしかけて  
はしのらんかん こしかけて はるかむこうを みわたせば  
じゅうひらはちの おねえさん かたてにせんこう はなをもち  
ねえさん あなたはどこですか わたしはきゆうしゅう かごしまの  
さいごうたかもり むすめです めいじじゅうねん せんそうに  
うたれてしんだ ちちうえの おほかをたずねて まいります  
おほかのまえて てをあわせ なむあみだぶつと おがみます

一かけ二かけ三かけて 四かけて五かけて橋かけて  
橋の欄干腰掛けて はるか向こうを見渡せば 十七八の  
お姉さん 片手に線香 花を持ち 姉さん あなたはどこ  
ですか 私は九州鹿児島西郷隆盛娘です 明治十年  
戦争に 討たれて死んだ父上のお墓を尋ねて参ります  
お墓の前で手を合わせ南無阿弥陀仏と拝みます

⑨譜9 「いちれつ談判」(てまりうた 歌・土居由乃)

いちれつ談判

いちれつだんぱん はれつして にちろせんそうと なりにけり  
さんざんにけるが ロシアのへい しぬまでつくすが にほんのへい  
ごまんのできと たたかいて ろくにんのこして みなごろし  
しちがつようかの たたかいは ハルピンまでも せめよせて  
クロバトキンの くびをとり とうごうげんずい ばんばんざい

いちれつ談判破裂して 日露戦争となりけり 散々  
逃げるがロシアの兵 死ぬまで尽くすが日本の兵 五万  
の敵と戦いて 六人残して皆殺し 七月八日の戦いは  
ハルピンまでも攻めよせて クロバトキンの首をとり  
東郷元帥万万歳

2. 天体・動物・植物の歌

⑩譜10 「ひらいた ひらいた」 (歌・山田美那子)

ひらいた ひらいた

ひらいた ひらいた なんのはながひらいた  
れんげのはながひらいた ひらいたと おもたら  
いつのまにかつ - - ほんだ

ひらいたひらいた何の花がひらいた ごんげの花がひ  
らいた ひらいたと思ったら いつの間にかつほんだ  
ひらいたひらいた何の花がひらいた 葉の花がひら  
いた ひらいたと思ったらいつの間にかつほんだ

②譜11「ことしのぼたん」 (歌・山田美那子)

ことしのぼたん

ことしのぼたんはよう咲いた  
おみみにからげてすつとんとん  
もひとつからげてすつとんとん

今年のぼたんはよう咲いた お耳にからげてスツント  
ンもひとつからげてスツント

③譜12「のうのうさん なんぼ」 (歌・山田美那子)

のうのうさん なんぼ

のうのうさん なんぼ じゅうさん このつとうみつ  
まだとしゃわかいな あのこをうんで このこをうんで  
だれにだかしょ おまんにだかしょ おまんはどこいった  
あぶらかいにちわかに あぶらやのかどで あぶらいつしよこほいて  
すべってころんだ

のうのうさん なんぼ 十三 九つ 十(とお) 三  
つ まだ年や若いな あの子を産んで この子を産んで  
誰に抱かしょ おまんに抱かしょ おまんはどこ行  
った 油買いに 茶買いに 油屋の門で 油一升こほいて  
すべってころんだ

④譜13「お月さん なんぼ」 (歌・土居由乃)

おつきさん

おつきさん なんぼ じゅうさん なな一つ  
そりやまだわかいな べにつけかねをつけ  
しょうやのおかかになろかいな

お月さんなんぼ 十三 七つ そりやまだ若いな 紅  
つけかねをつけ 庄屋のお嬢(かか)になろかいな

⑤譜14「からす」<その1> (歌・山田美那子)

からすかねもん

からすかねもん かんざぶろう おまえのうちは まるやけしゃ  
はよいんで みずかけにや みずかけるしゃくがない  
しゃくがなけりや かそうか かつてもかつても ようほらわん

からすかねもん勘三郎 おまえの家(うち)はまる焼  
けじゃあ 早ういで水かけにや 水うかける杓がない  
杓がなけりやあ貸そうか 借っても借っても よう払わ  
ん

⑥譜15「からす」<その2> (歌・土居由乃)

からす

からすからす かんざぶろう おばのいえに  
ひがついた ぜにゆさんもん やるけん  
しゃくこうてみずかける

からす からす 勘三郎 おばの家に火がついた 銭  
三文やるけん 杓こうて水かける

⑦譜16「こもこもつりのうた」 (歌・山田美那子)

こもこも出え



こもこも出え こもこも出え お茶にしようや おやつにしよう 三べんまわつて たばこにしよう

③譜19「もんめもんめ」

(集団あそびうた 歌・山田美那子)

もんめもんめ

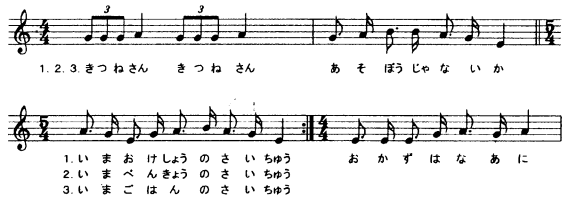


もんめもんめ 花いちもんめ ふるさとまとめて 花いちもんめ どの子がほしけりや あの子がほしい あの子じゃわからん この子じゃわからん 相談しましよ そうしましよ  
○○ちゃんがほしい なんで行くの おかごでおいで おかごギシギシ おかごで行こう

3. 縄跳び・鬼あそび・集団あそびの歌

①譜17「きつねさん」(目隠しうた, 歌・山田美那子)

きつねさん



きつねさん きつねさん あそぼうじゃないか 今お化粧の最中 きつねさん きつねさん あそぼうじゃないか 今勉強の最中 きつねさん きつねさん あそぼうじゃないか 今ごはんの最中 おかずはなあに 蛇にカエル 生きとるか死んだるか

④譜20「子をとろ」(集団遊びうた 歌・山田美那子)

子をとろ子とろ



子をとろ子とろ どの子がほしけりや 親あやつても子はやれん

②譜18「おじょうさん」(縄跳びうた 歌・土居由乃)

おじょうさん



おじょうさん おはいり ありがとう じゃんけんぽん あいごでしよ 負けたらさっさとお逃げなさい

⑤譜21「京の川瀬の」 (鬼ごっこ 歌・山田美那子)

京の川瀬の

ま じ り の か わ せ の は な み ず ぐ る ま  
み ず と さ く ら と あ わ せ て み た ら  
み ず の な が れ は ほ い さ っ さ の さ

京の川瀬の花みずぐるま 水と桜と合わせてみたら  
水の流ればほいさっさのさ

4. ことばあそびの歌

①譜22「いつちご にんじん」

(数えうた 歌・土居由乃)

いちごにんじん

い ち ご に ん じ ん さ ん し ゚ に し た け ご ぼ う に  
む か ご に な が い も や つ が し ら く わ い に と ん が ら し

いちごにんじん さんしよにしいたけ ごほうにむ  
かごに ながいも八つ頭(がしら) くわいとんがらし

②譜23「坊さんどこなら」 (歌・山田美那子)

譜 23

坊さん どこなら

ぼ ん さ ん ど こ な ら は っ とう じ も ん ぱ の も も ひ き や め く か ろ う  
し ら み が わ い た ら か い か ろ う

坊さんどこなら 八塔寺 モンバのももひきや めく  
かろう しらみがわいたら かいかろう

③譜24「あんたどこの子」 (歌・山田美那子)

あんたどこの子

あ ん た ど こ の こ お て ら の む ら の こ  
お お さ か ね え さ ん べ っ ぴ ん さ ん く さ か り ね え さ ん ど っ こ い し ゚

あんたどこの子 お寺の村の子 大阪姉さんべっぴん  
さん 草刈り姉さんどっこいしょ

5. 子守歌・行事の歌・手合わせ歌

①譜25「ねんねんころころ」

(子守うた 歌・土居由乃)

ねんねんころころ

ね ん ね ん こ ろ こ ろ ね ん こ ろ ろ り  
ほ う や の 一 ね た ま に ほ っ ぽ つ い て  
ち ん ぎ り ち ん ぎ ー り く わ し ゚ う ぞ

ねんねんころころ ねんころり 坊やの寝たまに ば  
っぽ搗(つ)いて ちんぎりちんぎり くわしょうぞ

②譜26「ケンケン小雛が」(子守うた 歌・土居由乃)

ケンケン 小雛が

け ん け ん こ き じ が い ま 一 な い た  
こ ー ろ が お や ま 一 の き じ 一 の こ ほ  
お 一 ち て と ん び 一 に す ら 一 れ な と  
ね ん ね ん こ ろ こ ろ こ ろ 一 い ち や  
な 一 い て よ た か に と ら れ な よ  
か あ さ ん ど ー り の こ も り う た  
ね ん ね ん こ ろ こ ろ こ ろ 一 い ち や

ケンケン小雛(こきじ)が今鳴いた ねんねんころこ  
ろ ころいちや ころがお山の雛の子は 鳴いて夜鷹に



捕られなよ 落ちてトンビにすられなと かあさん鳥の  
子守歌 ねんねころころ ころいちや

③譜27「ねんねこ ねんねこ」

(子守うた 歌・土居由乃)

ねんねこねんねこ



1. ねんねこ ねんねこ さかーやの こ  
2. よめいり どーぐーは なにーなに そ  
3. これほど したてーて やるーから に



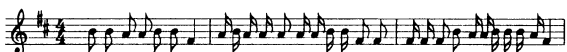
さか や が いや なら よめ に や ろ  
タ ンス に な が も ち は さ ん ぼ こ  
あ ーと へ か え ろ と お も や ん な

ねんねこ ねんねこ 酒屋の子 酒屋がいやなら 嫁に  
やろ 嫁入り道具はなにになぞ タンスに長持ち はさ  
ん箱 これほど仕立ててやるからに あとへ帰ろと思や  
んな

④譜28「向こうの山を」

(こもりうた・ことばあそびうた 歌・山田美那子)

向こうの山を



むこうのやまを おさるがさんびきとびよって いちばんききものしらず



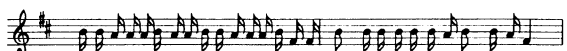
いちばんあともものしらず まんなかのこざるが ようものしとって



なまがわにとびこんで なまがわつびきへさえて てでとるのかわいし



あしでとるのかわいし かわらけのめげで すくうとって



あなたにひときれ こなたにひときれ よめにやるのがたらいで



ねぶかじる すわして こをうんだ

向こうの山をお猿が3匹飛びよって 一番先ももの  
知らず 一番後ももの知らず 真ん中の小猿がようも  
のを 知ってって なまがわにとびこんで なまがわう一  
匹へさえて 手でとるのも可愛いし 足でとるのも可愛  
いし かわらけのめげで すくうとって あなたに一  
切れ こなたに一切れ 嫁にやるのが 足あらいで 根  
深汁う吸うわして 子を産んだ

⑤譜29「中の中の小坊主は」

(子守うた 歌・山田美那子)

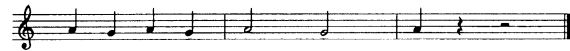
中の中の小坊主は



なかのなかのこぼうずは なんてせが



ひくけりや のうのうさんの まんまうて



はとおおきゆうなれや

中の中の小坊主は なんて背がひくけりや のうのう  
さんのまんま喰って 早う大きゆうなれや

⑥譜30「まるやま まるてん」

註

(手合わせうた 歌・土居由乃)

まるやま まるてん

まるやま まるてん どってんしゃを 見ればね 見ればね  
 みれば みるほど なみだが ほろほろ ほろほろ  
 ほろほろ なみだを ふきましょ ふきましょ  
 ふいた たもとは きたないね きたない きたない きたない  
 きものは あらいましょ あらった きものは あらいましょ  
 ほしましょ ほした きものは たたみましょ たたみましょ  
 た た だ きもーのは タンスに ピッサンコ  
 それを ねずみが ガジガジ かじった ガジガジ  
 きもーのは すてましょ すてましょ

まるやま まるてん どってんしゃを見ればね 見れば見るほど 涙がほろほろ ほろほろ ほろほろ涙をふきましょ ふきましょ ふいた袂は汚いね 汚いね 汚い着物は洗いましょ 洗いましょ 洗った着物は干しましょ 干しましょ 干した着物はたたみましょ たたみましょ たたんだ着物はたんすにピッサンコ それをねずみが ガージガジ ガージガジ かじった着物は捨てましょ 捨てましょ

以上、今回採取した津山のわらべうたの中から30曲について楽譜として示した。残りの44曲については次回報告することにする

- 1) 津山市林田町に生まれ、現在津山市林田に在住。調査時点において65歳である。
- 2) 津山市押入に生まれ、現在津山市下田邑に在住。調査時点において86歳である。
- 3) 町田嘉章・浅野建二編『わらべうた』における分類をもとに種別化した。

謝 辞

わらべうたの採集に当たっては、山田美那子氏（津山市林田在住）、土居由乃氏（津山市下田邑在住）、のお二人に多大なるご協力をいただいた。また、採譜においては、朋友、森やよいさん（千葉県君津市在住）に惜しみない援助をいただいた。

採録に快く応じていただいた皆様方に、ここに記して厚く感謝、お礼申し上げます。

(2002年12月1日 受理)